

目次

8月15日聖母の被昇天ミサ説教（ランディ神父）-----	2
8月15日の写真・全員記念写真 -----	3
パウロ大塚喜直京都司教のインタビュー -----	4～5
奈良ブロック共同宣教司牧の神父とシスターからのメッセージ -----	6～7
大勢の神父とシスターからのメッセージ -----	8～10
修道会とチェジュ教区の紹介 -----	11
写真で綴る献堂50周年から70周年 -----	12～13
(献堂50周年式典 パーティ)	
(パート1) マリスト会からフィリピン宣教会へ -----	14～19
(パート2) ユスト高山右近列福 -----	20～23
(パート3) 浦上信徒流配150周年 -----	24～27
教会年表1～3 -----	28～30
創刊から今日まで 「でめきん」 ヒストリー -----	31
聖母マリアさまをお迎えして -----	32～33
マリアさまの庭をつくる -----	34
時の写真（我が家の秘蔵写真） -----	35
教会歳時記 信徒消息 編集後記 --	36





ランディ神父を囲んでの全員写真



ミサ後のパーティ



グロット建立の挨拶
ランディ神父（左）と岡園さん



江口さん挨拶

被昇天祭点描



お像は母子像



グロット祝別



司祭館でマリア像の梱包を解く



マイケルさんご家族による献花



ライトアップされたグロットと流配碑



聖母被昇天ミサの説教 貧しい人々への愛と聖母マリア

ランディ神父（フィリピン宣教会）

1950年ピオ12世は、マリアが地上での生涯を終えた後、身体と魂と共に天の栄光へと上げられたとする「被昇天」を信仰の教義として定義しました。被昇天はカトリック教会における最も高い格付けの祝日である「大祝日」です。また、マリアが信仰と希望の模範であること、取り次ぎの力、そして被昇天とキリストの復活とのつながりについて黙想する機会でもあります。聖母マリアの祝日は、私たちカトリック信者にとって非常に特別な日です。それは、私たちがマリアを愛しているからです。

しかし、聖母の祝日は反カトリックの人々にとっても特別な日です。なぜなら、この日はカトリックを再び攻撃し、私たちの聖母への信心を疑問視する日だからです。反カトリックの人々は、「カトリックは聖母マリアを崇拜している」と言います。カトリックの人々は、「あなたがたは聖母マリアを無視している」と言います。この2つの言葉、「崇拜（adore）」と「無視（ignore）」を見てください。どちらが正しいのでしょうか？実は、どちらも正しくありません。なぜなら、聖母マリアを理解するには、2つの見方があるからです。1つは「信心のマリア」、もう1つは「福音のマリア」です。「信心のマリア」は、とてもカトリック的です。ロザリオを唱えること、ルルドやファチマ、秋田などの出現地への巡礼、ファティマのマリア像にキスをすること、そして、ここ大和郡山教会で毎週水曜日に行われている「絶えざる御助けの聖母」へのノベナなどが含まれます。また、「信心のマリア」には、生花を捧げることも含まれます。なぜならこの教会は「被昇天の聖母」に捧げられているからです。しかし、兄弟姉妹の皆さん、忘れてはなりません。「信心のマリア」は常に思う出させてくれます。聖母マリアが現れた人々は、みな貧しい人々だったということを。

聖母マリアは、司教にも、神学者にも、大富豪にも、そして教皇にさえも現れたことはありません。聖母マリアが現れたのは、いつも貧しい人々でした。貧しいベルナデッタ、ファティマの子どもたちもまた貧しい人々でした。マリアはいつも、貧しい人々や社会から取り残された人々のもとに現れました。そして、それが私たち、マリアの子どもたちにも現れているのです。私たちがカトリックの信心に欠けているのは、マリアの子どもたちである貧しい人々への思いやりです。私たちは巡礼に行くこともできます。ロザリオを祈ることもできます。膝で歩くこともできます。ファティマやルルドに行くこともできます。

ます。家や教会にマリアの洞窟を造ることもできます。

しかし、どうか兄弟姉妹の皆さん、その信心を地に足のついたものにしてください。そして、その信心が貧しい人々の必要に目を閉ざすことがないようにしてください。なぜなら、信心が貧しい人々への奉仕と愛の業と調和するとき、それは私たちにとって靈感を与え、祝福となるからです。私たちがカトリック信者は、聖母マリアを賛美し、祈りと取次ぎを願い、さらにおそらくはその信心が貧しい人々への愛に根ざしていないことから、「マリアを崇拜している」と非難されることがあります。

では、反カトリックの人々はどうでしょうか。彼らは聖母マリアを無視します。そしていつもこう尋ねます——「それは聖書に書いてあるのか？」と。しかし、聖書にははっきりと記されています。「めでたし、恵みに満ちた方、主があなたとともにおられる」——これは聖書にあります。「あなたは女のうちに祝福された方」——これも聖書にあります。

兄弟姉妹の皆さん、もしプロテスタントの言葉に心が揺らいでいるなら、どうか耳を傾け、聖書を読んでください。聖書こそが最初に聖母マリアをたたえているのです。そして、イエスの母を無視することは、イエスご自身を無視することなのです。

では、聖書から聖母マリアについて何を学べるのでしょうか。主はこう言われました——「私の言葉を聞いて、それを行う人は幸いである」と。この言葉は聖母にこそ、当てはまります。なぜなら、マリアは完全な弟子だからです。もし私たちが信心に対する先入観を捨て、マリアを「最初の弟子」、「模範的な弟子」として見ることであれば、プロテスタントもカトリックも、私たちの人生における聖母の価値を理解し、感謝することができるでしょう。

私たちは聖母マリアを崇拜しているわけではありません。しかし、その信心を貧しい人々への愛に根ざしたものとしましょう。聖母マリアを無視することはできません。そして聖書を学ぶときは、弟子としての観点から彼女を見つめましょう。

では、私たちはどうすべきでしょうか。崇拜するのか、無視するのか？兄弟姉妹の皆さん、もし二つの選択肢しか与えられていないのなら、三つ目を作りましょう——それは「ただ愛する」ということです。

主はすべての人を愛するように教えてくださいました。聖母マリアを含め、すべての人を愛しましょう。彼女を憎まず、無視せず、しかし感情だけで愛するのでもなく、もし本当に聖母を愛したいのなら、彼女の貧しい子どもたちを愛してください。それが、私たちが聖母を愛していることを彼女に一番よく伝える方法です。私たちは崇拜もしませんし、無視もしません。カトリックも反カトリックも、聖母マリアを愛しましょう。なぜなら、すべての人を愛することは美しいことだからです。

パウロ大塚喜直京都司教への誌上インタビュー

献堂70周年を糧にして、新たに希望を持って歩みましょう



パウロ大塚喜直京都司教

高山右近の列福運動について

司教さまにはお忙しいところありがとうございます。本日のインタビューは、この20年間を振り返ってその思いを存分に語っていただきたいと思い企画をしました。

まずユスト高山右近です。

2014年やまと郡山城ホールでの「音楽と劇で綴る高山右近の生涯」上演。長い間毎年、奈良・榛原で開催されてきた右近子ども祭り。また、フィリピン・マニラへの2度にわたる公式巡礼など京都教区あげて列福運動に取り組んでまいりました。その運動の意義なり、ご感想をお聞かせください。

大和郡山教会献堂70周年、心よりおめでとうございます。

高山右近の列福運動において、奈良ブロックの信徒の皆さまが長年にわたり熱心に取り組みしてきたことに、心より深く感謝申し上げます。「右近こども祭り」や、2014年に開催された「音楽と劇で綴る高山右近の生涯」の上演を通じて、右近の生涯は、現代に生きる私たちにとって貴重な霊的糧となり続けています。

列福祈願を込めたローマ巡礼やフィリピン・マニラへの巡礼は、右近の列福、さらには列聖への歩みを力強く後押ししてまいりました。わたしたちは次なる目標として列聖運動へと歩みを進めます。高山右近の信仰と勇気が、これからの時代を生きる私たちの灯火となりますように。

浦上信徒流配150周年について

当教会で行われた合同堅信式で司教さまは「この流配碑は京都教区ではここだけです」と話され、それをきっかけにして流配150周年祭が動き始めました。プレと本番の2回にわたって記念ミサと講演、パーティなどを開催して浦上からまた

特に心を配ったもの、思い入れが深いものを2、3あげてください。

2001年に「これからの京都教区の将来を考えて」を発表し、共同宣教司牧についての理解を深めることが目的でした。それ以来、年頭書簡の発表が重要な務めとなり、2025年まで続けてきました。教皇のメッセージに沿いながらテーマ設定、構想、執筆から脱稿まで約半年をかけて準備しています。テーマによつては2年から3年かけて掘り下げることもあります。

ヨハネ・パウロ2世教皇の時代においては、「日常からミサを生きる」というテーマのもと、信仰生活の中心にあるミサ（2004-2005）について論じました。また、召命の意味を再考することを目的とした書簡（2009-2010）も発表しました。ベネディクト16世教皇の時期には、「信仰」を主題とした書簡（2011・2012）を著しました。教皇フランシスコの時代には、神の貧しさを体現する教皇の姿勢に共感し、貧しさの霊性をテーマに据えた書簡（2014-2015）を公表しました。

さらに、環境問題に焦点を当てた回勅「ラウダート・シ」（2015）を受け、その後「インテグラルな回心」（2018）についても検討を重ねました。2020年に始まった新型コロナウイルス感染症のパンデミックの中では、生死についての深い省察を促し、終活に関する書簡（2022）を執筆しました。これらの書簡はす

全国から、遺族はじめ関係者が多数参加していただきました。また、大和郡山市でもシンポジウム「大和郡山市と浦上キリシタン」を開催、関心の深まりを感じました。

今後、「こうした運動をどのように展開していけば良いかお教えください」。

浦上信徒流配150周年記念行事を通じて、大和郡山教会の皆さまが信仰と歴史への理解を深められたことを、心より嬉しく思います。特に、若い世代への信仰継承は今後ますます重要となります。長崎浦上教会や西日本各地の流配先への巡礼をはじめ、大和郡山市との連携のもと、歴史保存活動や文化イベントを企画し、新たな学びと交流の場を創出していきましょう。信徒のみならず、関係者や歴史に関心を持つ多くの方々ともつながりながら、信仰と歴史の灯を次代に伝えていければと願っています。

故教皇フランシスコの来日について

司教さまは故教皇フランシスコの来日接遇チームの責任者としてバチカンとの打ち合わせ等、大変ご苦労されたと聞いています。日本滞在中のエピソードなどありましたらお聞かせください。

2019年の教皇フランシスコの訪日は、日本のカトリック教会にとって極めて象徴的な出

べて、時代ごとの喫緊の課題に対応する形で考察し、信徒にとつて信仰生活の霊的なヒントになればと思っています。

高齢化が進む教会について

大和郡山教会は、世間と同じく高齢化が進み教会運営もかつてのような進め方が大変むづかしくなりました。こうした状況下にあつてこれからの大和郡山教会はどのような方法で運営していけばいいのか、また望むことを何なりとお話してください

日本社会が少子高齢化という新たな時代を迎える中、教会もこの変化とともに歩んでいます。これはわたしたちがより豊かに成熟し、信仰をいっそう深めるチャンスでもあります。今こそ、若い世代とともに歩む道を拓き、家族全員が心をひとつにできる信仰行事を企画することで、教会の未来に新たな光を灯していきましょう。ご高齢の方や病を抱える方々への訪問、家庭での祈りの支援、そして年齢に応じた霊的な学びの場を整えることで、あらゆる世代が生き活きと成長していけると信じています。オンライン配信など新たなツールを活用するなど、変化の時代にあつて、教会はかつてないほど創造的に、そして希望をもって歩んでいけるのです。

ありがとうございます。

奈良ブロック共同宣教司牧担当 メッセージ

今の現実を見つめ 今できることを考えましょう

柳本 昭神父(モデラートル)



大和郡山教会のみなさん、70周年おめでとうございます。わたしが初めて大和郡山教会を訪ねたのは神学生時代か初ミサのときだったのか記憶は定かではありませんが、青年センター担当司祭になってからはたびたび訪れていました。

また、青年アジア体験学習も担当するよう

になり、当時は多くの青年が奈良県から参加していたので、大和郡山教会で集まりをすることが多く、わたしもそれに参加していました。ですから、わたしが奈良ブロックの担当司祭に任命されてから、大和郡山教会のミサに来たときも、懐かしい場所に來たような思いでした。

当時の青年たちも年を重ねてそれぞれの場所に巣立っていき、わたしも年を重ねて心身ともに無理できない状況になってきました。今回の原稿を催促されるまで失念していたのもその一つですね。同じように教会の建物も年を取り、無理でなくなってきましたが、それは当然の摂理です。大切なことは、過去の思い出に浸ることではなく、今の現実を見つめ、今できることを考えることだと思います。

主はわたしたちに永遠のいのちを与えてくださいました。それは死後もいのちが続くというだけでなく、今のわたしたちのいのちが受け継がれていくということです。

どのような形でこれからの教会共同体が続いていくかは聖霊にお任せするとして、今この地にわたしたちの教会があることの意味を共に考えましょう。

奈良ブロック共同宣教司牧担当 メッセージ

懐かしい日本風のタタミ敷の聖堂にお恵み豊かさ

シスター 服部 悦子(善きサマリア人修道会)



私は、善きサマリア人修道会に入会して、数年、奈良市に住んでいましたが、その後、東京、長崎県佐世保市と異動がありました(2回目)、奈良には、久しぶりに住むようになりました。初めて、週日に大和郡山教会に伺ったとき、内部は、日本風にタタミの上に、長イスがあり、なんとなく長崎県の教会に似ていると思いました。大きな聖堂の横に、小聖堂があり、ご聖櫃が置かれ、静かに祈る時間を持つことに気づき、お恵み豊かだと感じました。初めて訪問した教会でしたが、お会いする信徒の方々は、親しく声をしてくださり、心温まる機会に恵まれました。近鉄郡山駅から坂道を歩いていくと、十字架が見え、落ち着いた建物でスッキリした気持ちになりました。若返りました

二回目の異動で再度、奈良修道院に移ったとき、教会の敷地内に「浦上切支丹大和郡山流配者記念碑」があり、1869年「長崎浦上四番崩れ」が起こり、大和郡山にも14家族、86名の信徒が流され、苦難に満ちた流配生活を克服し、信仰を守り通しました。

この碑は、この地で殉教死した4名の方々を祭ったものです。信仰を守り通すという強い信念をお手本に当時の信徒の方々の神に対する大きな尊敬・信頼を改めて考えさせられました。

その後、私は、教会のいろいろな行事に参加することができ、その時の信徒のみなさんの協力する姿、そしていつも明るい笑顔、声が家庭的で楽しさを感じさせられました。これからの大和郡山教会の歩みに、神様の豊かな祝福と信徒全員で篤い信仰心・協力する心が続けていけるように、心からお祈りいたします。

奈良ブロック共同宣教司牧担当 メッセージ

守護聖人被昇天の聖母こそ 巡礼の模範

出水 洋神父(教区司祭)



大和郡山教会献堂70周年記念おめでとうございます。献堂記念を奈良ブロックの一人としてお祝いできることに感謝しております。

大和郡山教会の守護聖人は被昇天の聖母だということをお聞きました。聖母マリアの被昇天は

教会が辿る信仰するものの希望であり、全ての信徒にとつて聖母の被昇天は模範となります。大和郡山教会の皆様も信仰という素晴らしい恵みをいただいた時に聖母マリアとともに始まる新しい船旅に船出しました。そして多くの新しい信仰の友たちと出会い、信仰における豊かさを実感されていると思います。昨今では新たに多くのベトナム人の兄弟姉妹たちをはじめ外国籍の信徒も迎えて信仰の旅路をさらに豊かなものとして歩み続けています。私たち一人ひとりが、信仰の巡礼者として共に手を携えながら信仰の船旅を歩んでいます。

大和郡山教会に集う一人ひとりがイエス様に従い忠実に生きた時に、栄光の命の道を聖母マリアによって示されました。

今年は聖年であり「希望の巡礼者」として巡礼の旅をしている私たちにとって、被昇天の聖母こそ巡礼の模範となります。これからも、聖母マリアの模範に従いながら共に信仰の旅を歩んでいける共同体を築いていけるように願います。

奈良ブロック共同宣教司牧担当 メッセージ

聖母マリアに励まされ 私たちの使命を新たに

シスター ロサ・チェリアン(カルメル宣教修道女会)



今日は、私たちの共同体にとって、なんという恵みの日でしょうか。聖母の被昇天という聖なる祝日に、郡山カトリック教会創立70周年を迎えることができました。この祝日は、私たちの記念日を祝うのに、まさにふさわしい日です。聖母マリアが、その靈魂もろとも天に上げられた被昇天は、力強い象徴です。それは、愛と一致を通して人々の心を神様へと向けるという、私たちの教会の使命を表しています。過ぎ去った70年という年月に、深く感謝いたします。

では、聖母の被昇天は、今日の私たちにとってどのような意味を持つのでしょうか。第一に、それは私たち自身の行く末についての約束です。聖母マリアは、私たちの人生が神様と共にある栄光へと定められていることを示しています。死は終わりではなく、永遠のいのちへの通り道なのです。第二に、そのご生涯は、私たちにとって大きな励みとなります。聖母マリアは、謙虚に神を信頼して生きました。その姿は、静かな奉仕の生涯が、想像をはるかに超える報いに通じることを証明しています。最後に、聖母マリアは天におられる私たちのための、力強い仲介者です。私たちの喜びも苦しみも理解してくださる、愛情深い母であり続けています。私たちのために祈り、御子イエスのもとへと導いてくださいます。

私たちの教会の歴史と信仰との、この素晴らしい結びつきを共に喜びましょう。聖母マリアの模範に励まされ、私たちの使命を新たにしましょう。感謝のうちに過去を祝い、新たな希望を胸に未来を歩んでいきましょう。

大勢の神父・シスター方に感謝 感謝!!

(掲載順不動)

懐かしい郡山のノートを開いて



オヘール神父
(マリスト会)

この祝福された機会に、大和郡山カトリック共同体の皆様にご心からお祝い申し上げます。長年にわたり、皆様と共に主の臨在の恵みと証しを賜りましたことに感謝しています。私は数年間、皆さんの活動やイベントに数多く参加できたことを光栄に思い、今では主に感謝すべき貴重な思い出がたくさんあります。

今、懐かしいノートの郡山の名前のページに祈りを捧げながら読んでみると、皆さんの約200人を思い出しました。私たちキリスト教徒にとって、主の祝福を感謝と信仰をも

って覚えることは、主の愛の力を今実際に新たな方法で体験することです。そして今日、12年以上の隔たりを経て再び皆さんと祈りの中で結ばれたことを主に感謝します。祈りと祝福を込めて

家族のような雰囲気に触れて



シスター ポーリン
(カルメル宣教修道女会)

郡山聖母被昇天教会の創立70周年という聖なる機会にあたり、感謝の気持ちを込めて、心からのお祝いを申し上げます。

この素晴らしい教会の70周年記念のお祝いは、神の変わらぬ存在と、長年にわたり信仰、交わり、そして無私の奉仕において共に歩んできたす

べての人々の揺るぎない献身の反映です。70年にわたるキリスト教の交流、御聖体の交わり、共同体の祈り、惜しみない奉仕、そして霊的生活を通して、皆様の小教区は地域社会における希望、愛、そして霊的成長の光となってきました。

皆様との宣教活動を通して、皆様の愛、温かい歓迎、そして家族のような雰囲気に触れ、私は豊かに育まれてきました。教会の扉が開かれ、訪れる人々を温かく迎え入れてくださるのには、本当に素晴らしいことです。皆様お一人お一人に心から感謝申し上げます。

この喜ばしい記念日を祝うにあたり、聖母被昇天の執り成しが、皆様の教区家族を守り、お導きが続きますように。皆様の教会が、力強い信仰、一致、そして愛のうちに、未来の世代へと繁栄しますように。

2025年の聖年に教会の創立70周年を祝うことができ、皆様は大変恵まれています。三位一体の神が皆様を祝福し、真の希望の巡礼者としてくださいますように。改めて心からお祝い申し上げます。

愛の共同体をめざして



一場 修神父
(マリスト会)

教会はいま性虐待やハラスメントといった暴力のない教会をめざしています。

虐待やハラスメントといった暴力は、それを受けた人に大きな傷を残します。その傷の痛みは、多くの場合、生涯続きます。力を持っている者が、力を持たない、抵抗できない人に及ぼす暴力は、取り返しつかない傷をもたらし、暴力を受けた人は、生きることが困難になります。私たち教会は、今、この傷の痛みを感じるように求められています。私たち教会は、皆が安心して、互いに愛し合えるように、あらゆる暴力から解放されたのです。大和郡山教会が天の聖母マリアにささげられた教会として、暴力から完全に解放された、愛の共同体として、これからも、ともに歩んでいきますように、心からお祈りしています。

ともに歩んだ日々の思いを心に



フェリペ神父
(グアダルペ宣教会)

献堂70周年を心よりお祝い申し上げます。この喜ばしい節目にあたり、かつてこの教会の歩みにご一緒させていただいた者として、心からの感謝と祝福の思いをお伝えいたします。大和郡山の地に主の家が建てられてから70年——。この教会は、祈りと信仰、そして多くの方々の奉仕と愛によって支えられ、地域における福音の灯として輝き続けてきました。歴代の司祭方、修道者、信徒の皆さまの献身を思い起こすたびに、神の豊かな恵みが注がれてきたことを改めて感じます。この節目の年が、これまでの歩みを振り返りつつ、これからの信仰の旅路を新たに始める機会となりますように。そして、聖霊の導きのもと、大和郡山教会がますます主の愛と希望を証しする場となりますよう、お祈り申し上げます。

ダン神父との楽しい共同生活



瀧野正三郎神父

私が大和郡山教会の司祭館に住むようになったのは、2015年4月20日からで、ホセ神父が、日本を離れて間もなくでした。奈良教会では、人の出入りが多く、落ち着きがなかったのですが、こちらでは、のんびり過ごすことができました。

7月からは、日本語の勉強のために、那覇教区所属のフィリピン宣教会のダン神父と一緒に住むことになりました。司祭になって2年間だけは、共同生活をしていましたが、その後は、一人で生活をしていましたが、最初は緊張しましたが、慣れるにしたがって、楽しい時間を過ごすことができました。

ダン神父は、平日は大阪のYMCAに通っていましたので、夕食は彼が帰ってから一緒に食べていました。彼は、毎日、次の日の予習をしていて、

私の親愛なる先生 瀧野神父



ダン神父
(フィリピン宣教会)

2014年、私は大和郡山教会に正式な居住者として1年間派遣されました。その時、モデラートルの瀧野正三郎神父は郡山教会に滞在していました。

YMCA大阪で日本語を勉強しながら、

長年にわたってご指導いただいている修道会と姉妹教区のチェジュ教区の紹介

マリスト会

マリスト会マースデン神父が戦後まもなく日本とオーストラリアの架け橋になるべく1949年来日。奈良での宣教活動が始まり、幼稚園、老人ホームと小教区の司牧の傍ら奉仕活動を展開。そして1955年に大和郡山の地にもその種がまかれた。主任司祭がヒル神父。2012年日本から撤退。現在、一場神父が京都教区におられる。

フィリピン宣教会

1965年、フィリピンはキリスト教国になって400年を経て、それを祝い、恵みへの愛と感謝のしるしとして、同年1月フィリピン人の宣教師だけからなる「フィリピン宣教会」がキリスト教発祥の地であるセブ市に設立された。創立60年を経過した現在、広くアジア、オセアニアに司祭を派遣している。現在、京都教区には、G. ランディ神父、M. ブルース神父、ホセ・アントニオ神父がおられる。また、広島教区には2人、那覇教区に2人が司牧されている。

善きサマリア人修道会

1857年、オーストラリアに創設。ルカ福音書にある強盗に襲われ傷ついた人を介抱したサマリア人のように生きることを目指す修道会。かつて奈良修道院を拠点に、幼稚園の宗教クラスでのお話、大学における「キリスト論」の講義、滞日外国人のお世話、特別養護老人ホームでの奉仕など行った。現在、本拠を兵庫県尼崎市に移転した。奈良ブロックには、かつてSr. 森川晴子が、そして現在Sr. 服部悦子がおられる。

チェジュ教区

2005年に韓国チェジュ教区と京都教区は姉妹教区の縁組を結び、司祭、神学生、信徒間の交流を深め、今年20周年を迎えた。毎年6月を交流月間に定めている。済州島の面積は淡路島の約3倍の大きさ、人口は約66万人。奈良ブロックには、かつてホン・ユンハク神父がおられた。現在、京都教区には2人の神父がおられる。

グアダルペ宣教会

1948年、メキシコカトリック司教団によって創設された。1956年、最初の3人の宣教師が来日、1958年、仙台教区の福島県会津若松で福音宣教を開始した。1984年に京都教区、続いて2000年には東京大司教区で福音宣教が開始された。

奈良ブロックには、かつてはナバロ神父、ミゲル神父、そして最近までフェリペ神父がおられた。

カルメル宣教修道女会

1860年、カルメル会士フランシスコ・パラウによって創設され、宣教、教育、医療などに携わり、全世界で活動している。創設者をはじめ、列福されている方も複数おられる。

奈良ブロックには、かつてSr. ポーリン・フェルナンデス(現在・京丹ブロック) Sr. リーナ・ファラス(現在・山城ブロック)そして現在、奈良ブロックには、Sr. ロサC. とSr. ローマ・ミンジがおられる。

この祝賀会でハート、マインド、スピリットをひとつに



ホセ神父
(フィリピン宣教会)

すべてのお祝いには感謝祭が必要です。私たちは贈り物そのものに感謝するだけでなく、贈り物を与えてくださる神さまにもっと感謝しています。神さまこそが私たちがお祝いをする理由です。カトリック大和郡山教会の奉獻70周年に、心からのご挨拶と心からのお祝いを申し上げます。これは、私たちが信仰、奉仕、コミュニティで一つになって70年を祝う、本当に大きな喜びと感謝の瞬間です。

すべてのお祝いにはドラマがあり、その背後には物語があります。私たちのお祝いは楽しいものかもしれませんが、準備の間、私たちのお祝いを可能にするために仕え、苦しみ、犠牲を払う多くの人々が背後にいます。また、この教区で奉仕していた以前の司祭や、別の場所に引越した

か、すでに去った家族や地域社会のメンバーのことも覚えています。彼らは私たちの教区の一部になりました。奈良地区にいた時、皆さんと過ごした時間を今でも覚えています。喜びと悲しみ、浮き沈みをあなた方と共有しました。司祭職の初期に奉仕をしたことが、今の私を形作るのに役立ちました。私は別の種類の司牧を行っていますが、私の宣教経験は、神学校の担当者として今に役立つツールでもあります。今どこにいても、離れていても、私たちは未だつながりを持っています。私たちは教会と頭であるイエス・キリストという一つの体です。

皆様、創立70周年おめでとうございます。私の思いと祈りの中に、あなた方を思い出しています。

郡山教会の語学の先生方に感謝

カトリック大和郡山教会の奉獻70周年に、心からのご挨拶と心からのお祝いを申し上げます。

それに伴い、私が大和郡山教会で体験した美しい体験をいくつかご紹介したいと思います。それは、私が日本語でミサ聖杯を捧げる方法を学び



アントニオ神父
(フィリピン宣教会)

始めた日本で最初のカトリック教会の一つでした。最初は、言葉に苦労し、間違えるのではないかと心配していました。しかし、私は忍耐強く改善を助けてくれる親切で協力的な信者に囲まれていたことに恵まれていました。ミサが終わるたびに、郡山教会の先生方が私の日本語の発音を優しく

直してくれました。本当にありがたかったですし、おかげで発音が格段に良くなりました。

長年にわたり、私にとってこの教会は、日本人と国際社会の多くの人々の希望と家として立つてきました。それは数え切れないほどの祈り、秘跡、そして愛の行為を目撃してきましたが、それらはすべてキリストの教えに根ざしています。この祝賀会が過去を称えるだけでなく、これからの世代のために教会の使命に対する新たなコミットメントを鼓舞し



ブルース神父
(フィリピン宣教会)

ますように。神様がこれからも大和郡山教会とそのすべての信徒たちを平和と一致、そして豊かな恵みで祝福してくださいように。

来日して最初のミサは郡山教会

郡山教会での時間は私にとって大きな恵みでした。信者さんのみなさんは親切で、温かく迎えてくださいました。

実は、私が最初にミサをささげたのも、初めて聖週間と復活祭を祝ったのも、郡山教会でした。

毎週水曜日のノベナと分かち合いの食事は、私の心を励ましてくれました。

郡山教会70周年、おめでとうございます！

これからも、多くの人々の心が神さまへと引き寄せられますように



献堂50周年記念祝賀式典開催

2005年7月17日

大和郡山市長はじめ近隣の自治会役員さん、奈良ブロックの教会のみなさん、数多くのお客様がお祝いに来てくださいました
記念ミサ、中庭での記念撮影、幼稚園の園庭で祝賀パーティなどお祝いムードに盛り上がりました



2005年7月17日、献堂50周年式典が晴れやかに開催されました。
来賓で出席された上田大和郡山市長は「大和郡山市は一年先に発足しました先輩です。
ともに50年を歩んできました。 広報誌『でめきん』を拝見して嬉しく思います。
”金魚の町大和郡山” 大いに宣伝して盛り上げていきましょう」と挨拶されました



写真で綴る献堂50周年から70周年



福音宣教50周年記念祝う(2014年)

フィリピン宣教会

奈良教会でのミサの後、ホテル日航奈良に会場を移して記念祝賀会が開催されました



マリスト会日本から撤退
2012年奈良教会において
お別れの会が開催されました



パート1 マリスト会からフィリピン宣教会へ



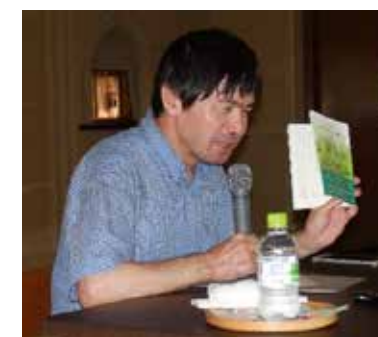
ウィックス神父の突然の悲報(2005年)



本紙(2006年1月号)で特集
葬儀ミサでのオヘル神父の説教
「神父は四国の教会を巡礼、亡くなる
前の夜、みんなで聖歌を歌いました。
その歌を今日ここで歌いたいと思いま
す。イエスよ、御国においてになる
時に、イエスよ、私を思い出してくだ
さい」



黙想会(一場神父、パウログリー
ン神父)、復活祭(ニュージェ
ント神父)にと私たちを導いて
くださいました
ヒル神父叙階60年お祝い
ウオルシュ神父帰国送別会



2008年 司教年頭書簡「京都の大殉教を想う新しい福音宣教」
神父異動 西野神父静養 ウォルシュ神父帰国 ミゲル神父仙台へ



大塚司教「現代の殉教とは・・・」

ペトロ岐部と
187 殉教者の列福



ミゲル神父送別会



11月2日 大盛況のバザー



「賛美の集い」に
わがコーラス隊参加
やるぞ 壮年会が鍋料理



クリスマスイブパーティ
ウォーカーソンに郡山幼稚園
の先生と園児参加



2005年～2006年
司教年頭書簡「日常からミサを生きる」
小教区評議会のもと部会制度がスタートしました



年初の奈良ブロック会議 懐かしい神父さま方



枝の主日



木漏れ日の部屋 祝別



2007年
高の原野外センターで
合同堅信式
大塚司教の着座10年



子どもたちが元気に街頭募金



復活祭に洗礼式



初聖体のパーティにもぎやかでした





高山右近列福祈願マニラ巡礼



2011年 司教年頭教書
「信仰」—キリストのいのちに生かされていますか—
3月、東日本大震災発生。仙台教区はすぐさまサポートセンターを立ち上げ、その活動は今も続いています。
私たちも募金、救援物資を送り、支援しました



西野猛生神父帰天 左・故江口ヒデ子さん事務所事務から引退



2012年 司教年頭教書 「信仰」パート2 —信仰の恵みを生きよう—



聖母の被昇天の祭日 皆さんの笑顔がすばらしい



ランディ神父7年ぶりに
司祭館に居住



奈良地区協議会主催
「中高生夏の集い」で大塚国際美術館
(鳴門市)見学



カトリック奈良結婚準備セミナー20周年記念
映画監督河瀬直美氏のトーク記念イベント開催(奈良教会)
20年間で400組に近いカップルがセミナー受講

2009年
司教年頭書簡「召命」
—京都教区21世紀
召命促進元年—

2010年 司教年頭書簡 「召命」パート2 —わたしに何をお望みですか—
「教会で、実社会で神が私に望まれていることは?」 奈良北部ブロックの司教訪問が当教会において開催。司教講話に引き続いて9つのグループ分かれて分かち合いが行われました



初めての「お茶の会」開催
おしゃべりと歌で楽しむ。
以降、隔月でテーマを変えて開催されました
左・恒例のウォーカソンとバザー